

# AREホールディングス株式会社 2024年3月期 通期決算説明資料

2024.4.25

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 概要

売上収益	売上収益3,223億円（前期比 480億円） 金の販売量及び販売価格が前期を上回ったこと、北米精錬事業が伸長したことが要因	
営業利益	営業利益 124億円（前期比 △39億円）	
ロジウムとパラジウムの影響	ロジウムの価格は前期末比約4割低下、しかしながら昨年7月以降価格は概ね安定 パラジウムの価格は前期末比約2割低下	
その他の要因	エレクトロニクス・触媒分野の回復の遅れが回収量に影響 愛媛工場閉鎖を決定したため、減損損失8億円計上	
株式交換	状況	3月31日にジャパンウエスト株式会社と株式会社レナタスとの株式交換が完了
	会計処理	ジャパンウエスト株式会社は連結除外、同社の事業は非継続事業に分類 これに伴い2023年3月期も非継続事業を除外して記載 非継続事業： 売上収益 366億円（内204億円は株式交換差益） 税引前利益 236億円（内204億円は株式交換差益） 当期利益 160億円 2025年3月期より株式会社レナタスが持分法適用会社になり、持分法投資損益を営業損益に計上
2月29日付業績予想との差異	金価格の上昇、北米トレーディング収益の増加、株式交換差益が発生。その結果、予想比増収増益	

以降ページより、ジャパンウエスト株式会社と株式会社レナタスをそれぞれ、ジャパンウエストとレナタスと表記

### 貴金属事業(アサヒプリテック・アサヒメタルファイン・アサヒリファイニング)

国内貴金属リサイクルは高い金価格を背景に宝飾分野が好調な一方、円安により触媒分野が苦戦。北米は製品加工・販売は減少した一方で、トレーディング・前渡しなどの関連取引が好調。

分野	事業環境
デンタル	金価格が上昇した反面、徐々に素材転換が進んでいることやパラジウム価格の下落により回収量が減少。
宝飾	金価格の高騰が継続し、リサイクル市場の流通量が増加したことから回収量は前年比で約1.6倍に増加。
触媒	国内は円安と相場下落の影響で回収量が減少。海外は東アジア触媒メーカーからの回収量が減少。
エレクトロニクス	A I 関連やE V 需要は好調を維持しているが、中国市場の低迷を受け民生向け需要が弱く回収量は減少。
北米精錬事業	製品加工・販売は減少したが、トレーディング・前渡しなどの金融取引が好調。

### 環境保全事業(ジャパンウェイスト)

廃試薬は3Q以降、競合撤退により取扱量が更に伸長。医療系廃棄物は前年のコロナ関連受注を除けば取扱量は増加傾向。廃液取扱量はスポット案件の受注があり前年同四半期比で増加。横浜工場の事業転換により汚泥・木くず取扱量は減少。

処理品目	事業環境
廃液	半導体需要により好転の兆しはあるが、前年同四半期では減少。
廃試薬	3Q以降同業他社の事業撤退影響があり、取扱量は更に増加傾向。
医療系廃棄物	前年のコロナ特需は無くなった一方で、全体取扱量は増加傾向。
廃プラ	2Q以降に続くセメント関連の燃料需要増加により、当社取扱量は減少。
その他	横浜工場の事業転換により汚泥・木くずの取り扱いを停止したため、前年同四半期比減少。

## 4

## 連結業績

ARE

単位:億円

	FY2022	FY2023		FY2024	
	実績	実績	前期比 増減	予想	前期比 増減
売上収益	2,742	3,223	480	3,700	477
営業利益	163	124	△39	180	56
営業利益率	5.9%	3.8%	△2.1%	4.9%	1.0%
税引前利益	126	124	△2	176	52
当期利益※1	109	245	136	131	△114
設備投資	49	85	35	129	44
減価償却費	33	36	3	31	△5

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

(注) ジャパンウエイストの事業は非継続事業に分類しているため売上収益及び営業利益には含めず、FY2022も同様

# 5 貴金属事業セグメント



## 貴金属リサイクル事業(国内アジア)

### 2023年度

宝飾分野からの回収が増加し金の販売量が増加、金価格も上昇。一方で、触媒やエレクトロニクス分野の停滞が続いていることや、パラジウムとロジウムの価格下落の影響を受ける。

#### ➡増収・減益

## 北米精錬事業

### 2023年度

精錬手数料、トレーディングや前渡し収益が増加。一方で需要の低下により、製品販売・加工は減少。

#### ➡増収・増益

(単位:億円)

貴金属	FY2022	FY2023		FY2024	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	2,742	3,222	480	3,700	478
営業利益	172	127	△ 45	160	33
利益率	6.3%	3.9%	△ 2.3%	4.3%	0.4%

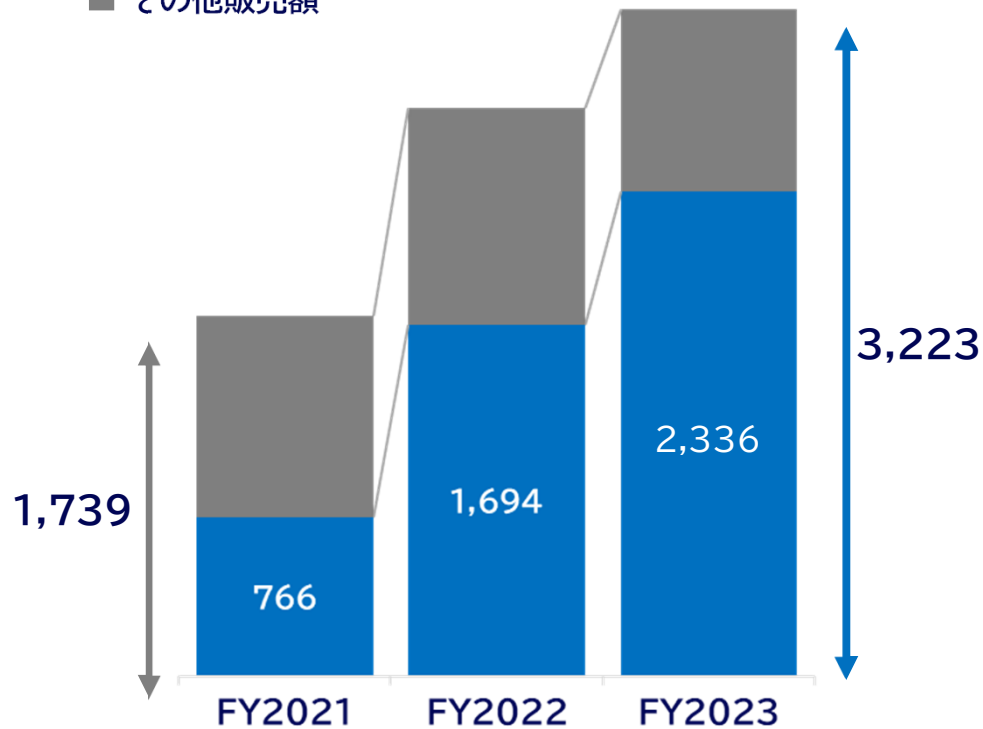
※FY2023からのセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理

- 売上収益に占める金の割合はYoYで上昇、宝飾分野からの金の回収量及び販売量の増加と金価格の上昇に伴う販売価格の上昇が要因

### 売上収益内訳※

- Au販売額
- その他販売額

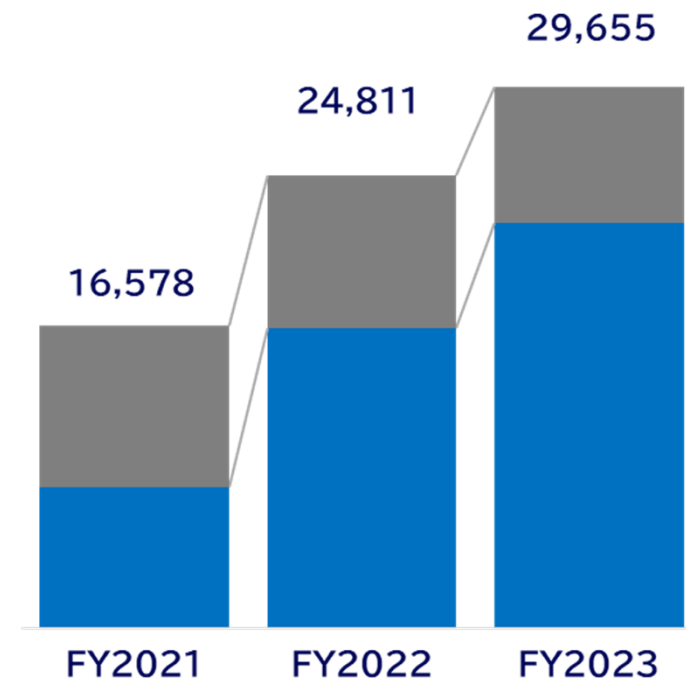
単位: 億円



### Au回収分野内訳

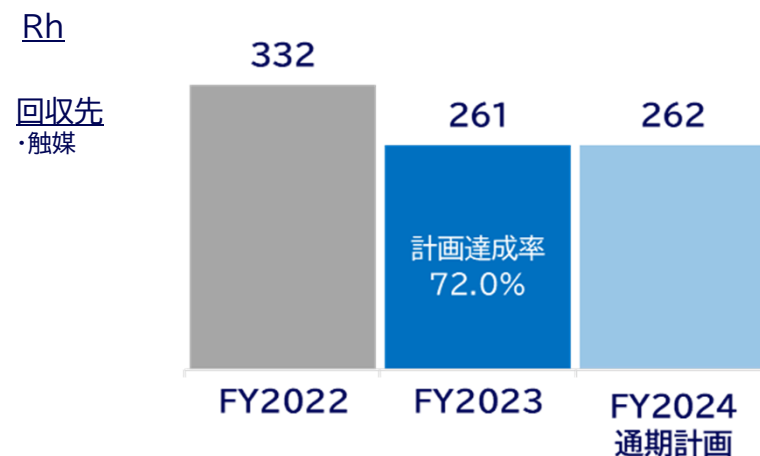
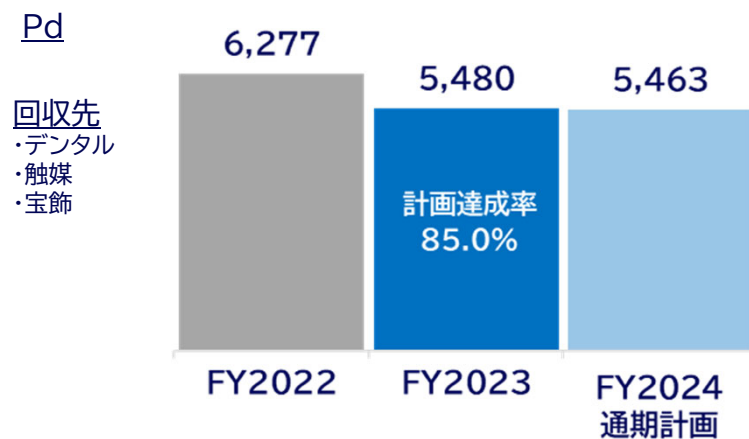
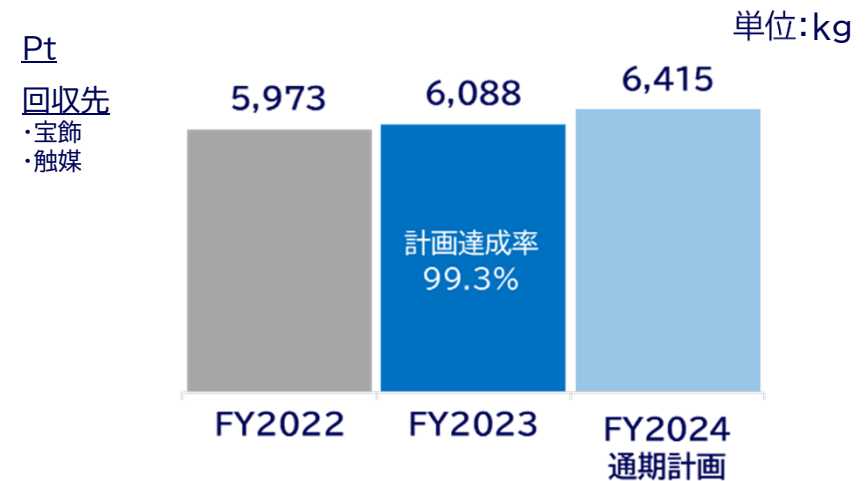
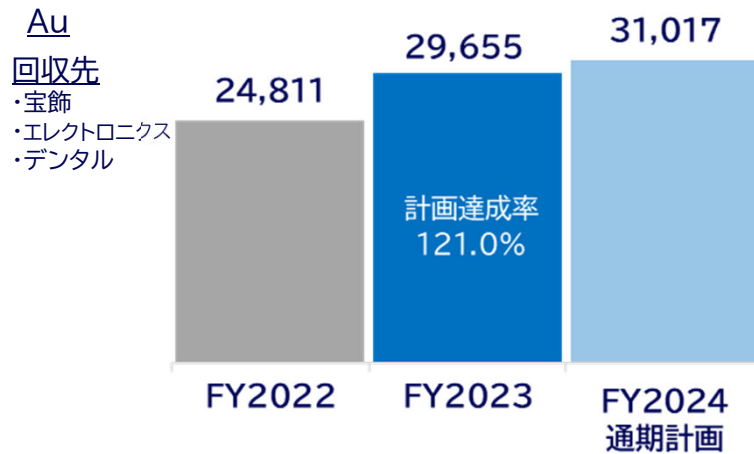
- 宝飾分野
- その他分野

単位: kg

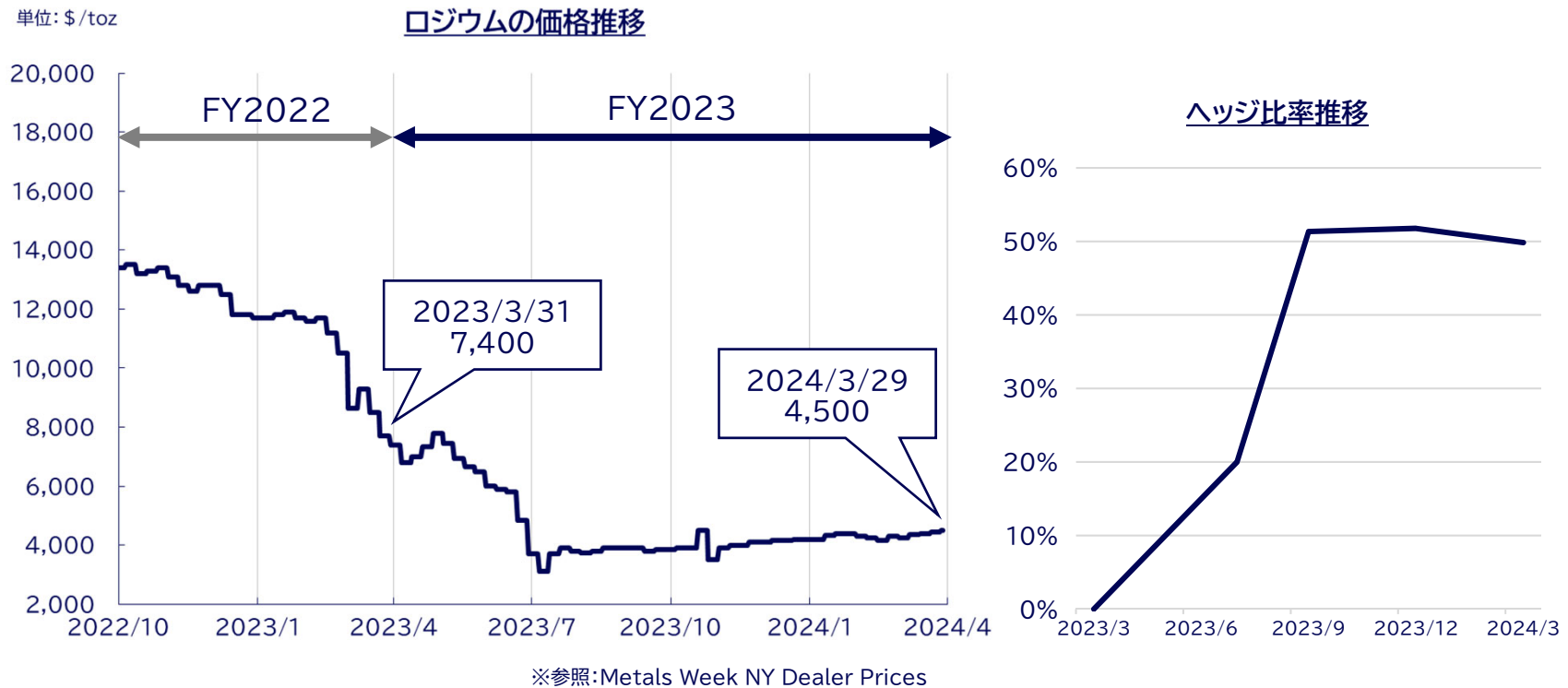


※ジャパンウェイストの事業は非継続事業に分類しているためFY2021とFY2022も遡及処理

- 金価格の高騰を背景とした宝飾分野の市場流通量の増加や、坂東工場の増産体制整備などにより金の回収量は前期比増加、グリーンゴールド販売強化戦略の一環
- 一方で、パラジウムは触媒分野の低迷やデンタル分野の素材転換の影響もあり減少



- 2024年3月末のロジウムの価格は前期末比4割下落、一方で2Q以降は安定的に推移。その結果、ロジウムの利益は改善し3Q以降黒字化
- ロジウムのヘッジ比率は2024年3月末時点で50%と計画通り進捗

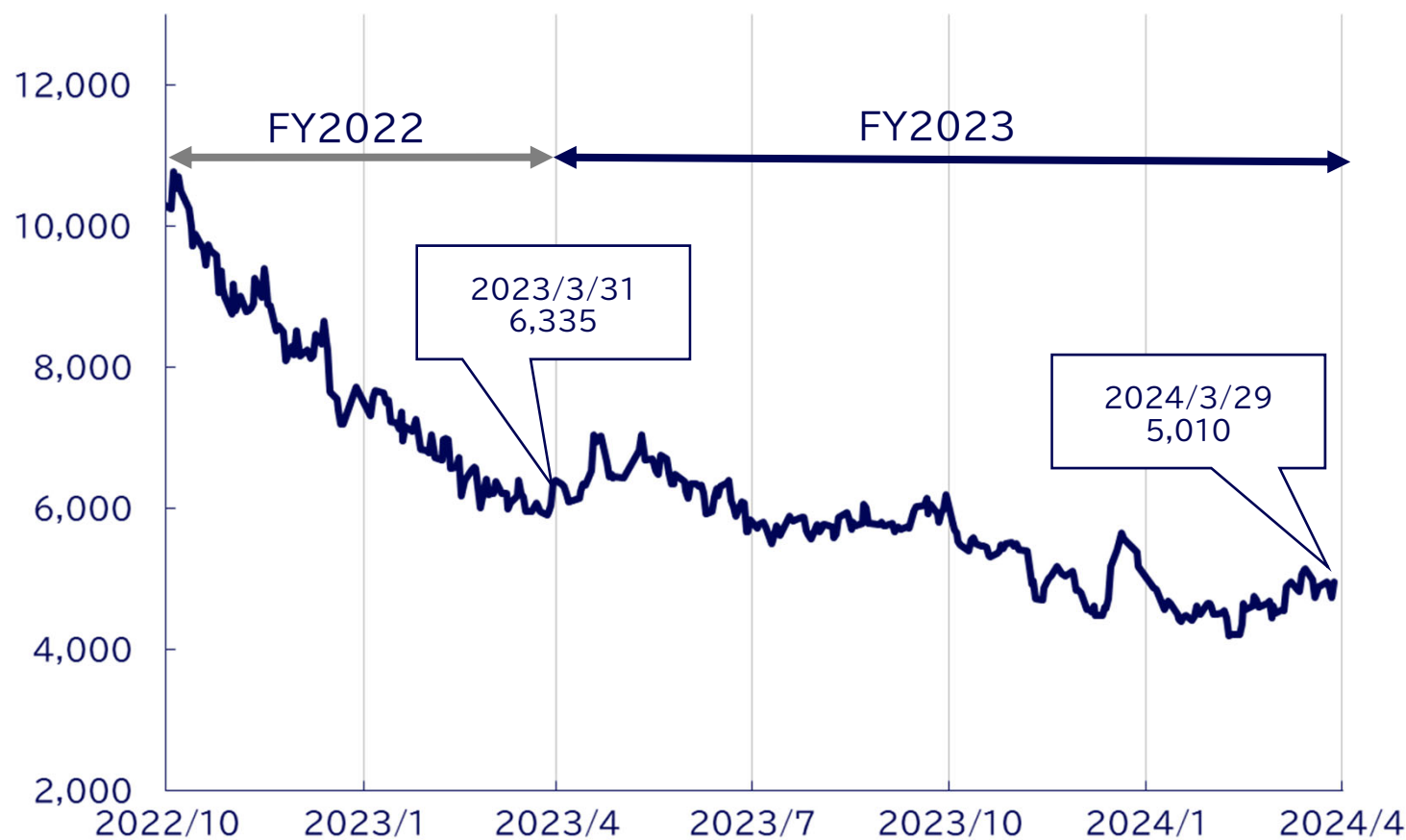




- 2022年10月以降パラジウムの価格下落が続く。2024年3月末は前期末比2割下落しており、減益要因となる

〔単位:円/g〕

### パラジウムの価格推移



※参照:日経安値

## 環境保全事業

## 2023年度

産業廃棄物の取扱量や処理施設の稼働率は安定推移したが、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが変わり医療系廃棄物の単価が下落していること、横浜工場の新焼却炉建設に伴い事業転換(既存事業の廃止)したことの影響を受ける。

株式交換に伴いジャパンウエイストの事業は非継続事業に分類され、当社の売上収益、営業利益から除外。またレナタスの公正価値評価とジャパンウエイストの簿価との差額204億円を株式交換差益として非継続事業の収益及び税引前利益に計上。差額がジャパンウエイストの業績に相当。

## 2024年度

ジャパンウエイストは当社の子会社ではなくなったため連結除外。

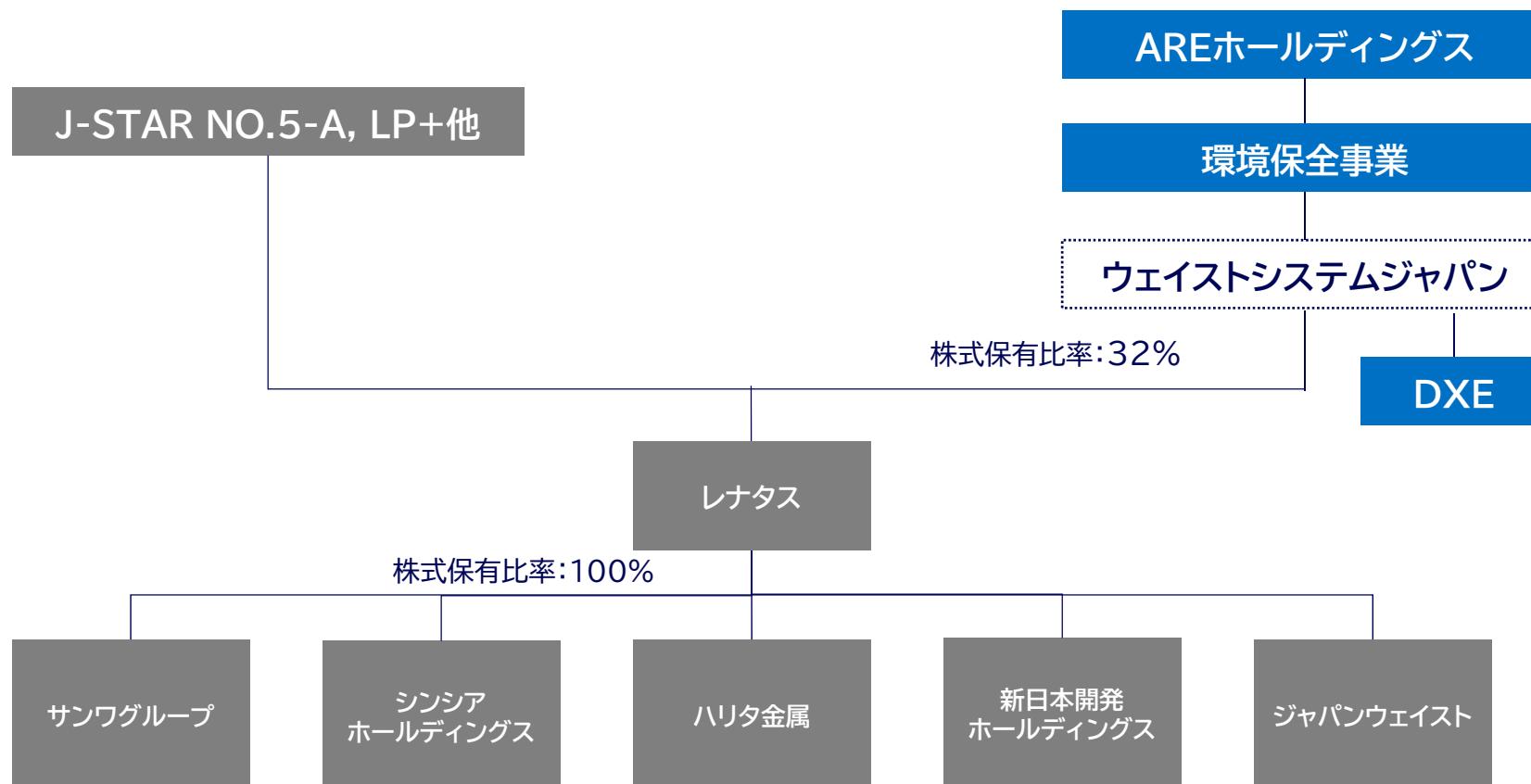
一方で、レナタスが当社の持分法適用会社となったため、レナタスの当期利益の持分比率相当(32%)を、持分法投資利益として当社営業利益に計上予定。

(単位:億円)

非継続事業	FY2022	FY2023			前期比増減 ②-③-①
	実績 ①	実績 ②	株式交換差益 ③	ジャパン ウエイストの業績 ②-③	
収益	187	366	204	163	△ 25
税引前利益	34	236	204	33	△ 1

# 11 (参考)株式交換後の体制

- 2024年3月末でジャパンウェイストとレナタスとの株式交換が予定通り完了
- 持分法適用会社であるレナタスは上場を目指す



AREグループ内の所有形態は予定

# 12 財政状態

ARE

単位:億円

	2023年 3月末	2024年 3月末	増減	備考
流動資産	2,384	2,538	154	
営業債権	1,540	1,553	12	営業債権残高および増減額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	409	339	△ 70	棚卸資産残高および増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。原則として買取時に貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに限定的。
その他	435	646	212	
非流動資産	491	642	152	
資産計	2,874	3,180	305	
負債	1,805	1,915	110	
社債及び借入金	1,444	1,412	△ 32	大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
その他	361	504	142	
資本	1,070	1,265	195	
資本・負債計	2,874	3,180	305	

# 13 キャッシュフロー計算書

ARE

単位: 億円

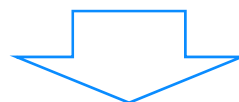
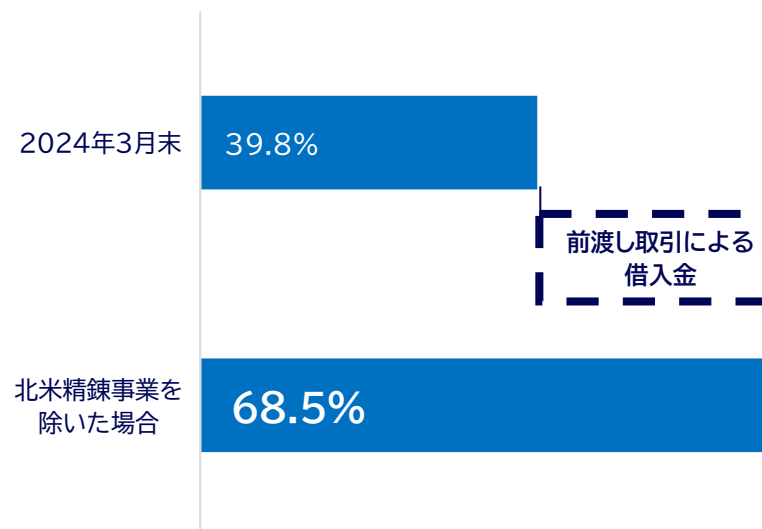
	FY2023	備考
営業活動によるキャッシュフロー	126	
棚卸資産の増減額	66	増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。貴金属含有量を分析してから購入し、原則として先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに限定的。
営業債権及び その他の債権の増減額	136	増減額の内、129億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増減額。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
営業債務及び その他の債務等の増減額	△ 136	増減額の内、143億円は北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額。借入金の増減額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増減額として表示。
その他	61	
投資活動によるキャッシュフロー	△ 287	貸付けによる支出 196億円
財務活動によるキャッシュフロー	71	
借入金の増減	143	
配当金の支払い額	△ 69	
その他	△ 3	
換算差額	△ 20	
現預金の増減額	△ 111	

## 財政状態

単位: 億円

	2024年 3月末	北米精錬事業を 除いた場合
流動資産	2,538	1,206
非流動資産	642	642
資産計	3,180	1,848
負債	1,915	583
資本	1,265	1,265
資本・負債計	3,180	1,848

## 自己資本比率

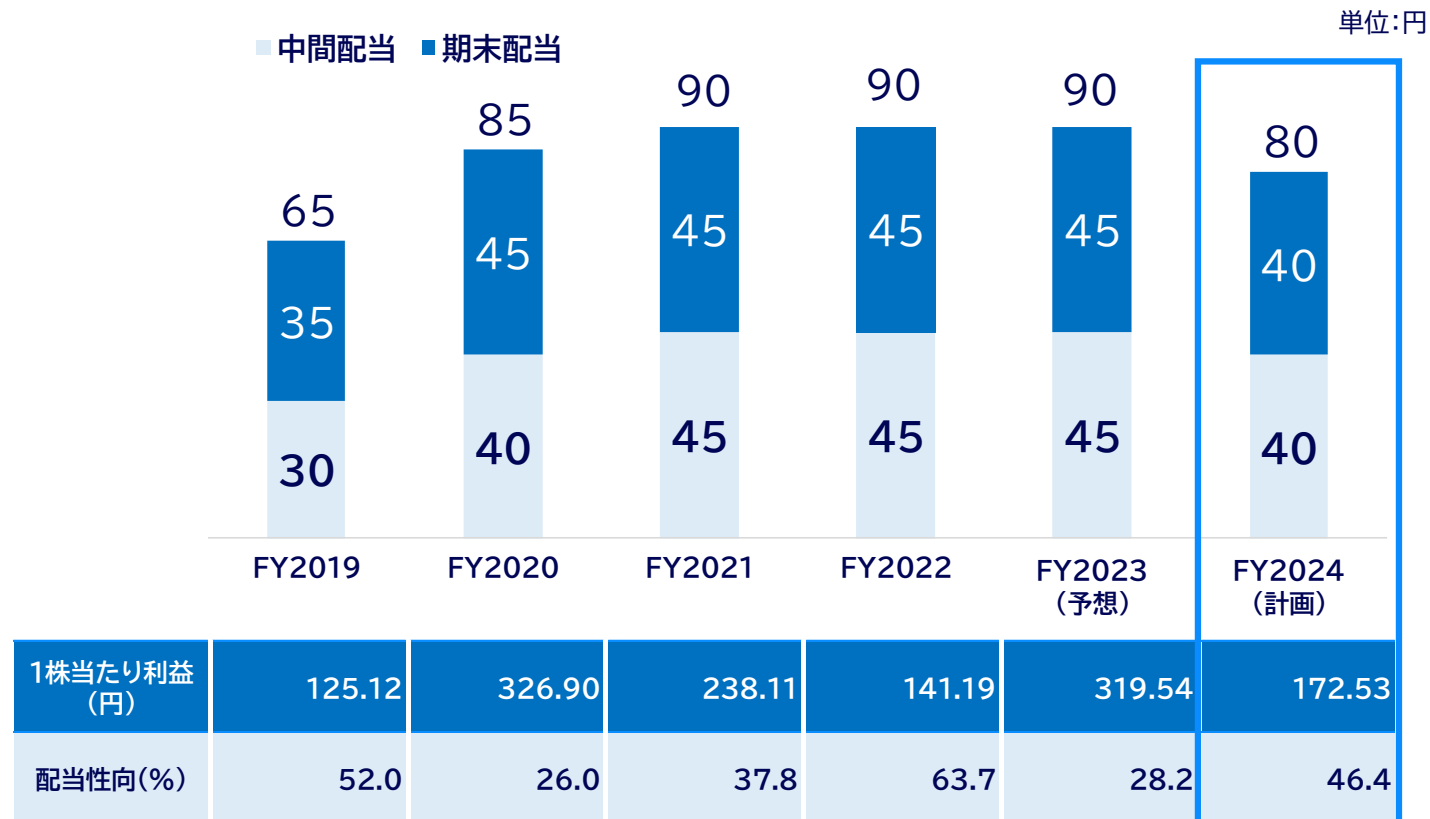


- ・ 流動資産の主な内容は、北米精錬契約に付帯した前渡金であり、金の現物で担保された安全資産
- ・ 事業拡大に必要な大規模資金を競争力あるレートで調達
- ・ 北米精錬事業を除く自己資本比率は68.5%と良好

# 15 株主還元



- 2023年度の年間配当は90円  
配当性向は28.2%となるが、株式交換差益の影響によるものであり、営業利益は124億円
- 2024年度の年間配当は80円を計画  
一方で自己株式取得(金額10億円、650千株を上限)を実施予定であり、総還元性向は54.0%と予想



※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2021/3期までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示

# 16 貴金属価格推移[金・パラジウム]







単位:円

貴金属 価格 (1gあたり)	FY2022 4Q	FY2023 4Q	
	期中 平均価格	期中 平均価格	増減
金	8,058	9,920	1,862
パラジウム	6,833	4,717	△ 2,116
プラチナ	4,307	4,415	108

◆参照元  
 金…山元建値  
 パラジウム…日経安値  
 プラチナ…小売価格(税抜)